



IUFRO-J NEWS

No. 14 (1981.1)

ユフロ大会開催の年を迎えて

いよいよ、第17回 IUFRO 大会の年を迎えました。初めての経験で、心配な点も多いわけですが、お蔭様で関係各位の御理解と心からの御支援を得て、準備が進められていることは、誠に心強い限りです。

IUFRO はヨーロッパに生まれ、陸続きの多くの共通問題をかかえた国々によって育てられて来ましたが、参加国も著しく増加して各大陸にわたっている現在では、討議すべき問題も極めて多彩になっています。毎年理事会が開かれて、IUFRO の活動について審議されていますが、各研究グループのメンバーは、世界中に分散しているために、連絡のとれ易い人達、すなわち欧米の人達を中心になって、研究活動がリードされる傾向が残っています。そのため、重要な林業林産問題の取上げ方にも精粗がある様に思われます。

今回、ヨーロッパとは遠く離れた日本で大会が開かれることは、IUFRO を本当の意味で世界のものにする上で、極めて意義が深いと思いますし、多くの国々の人々から、大きな期待が寄せられているところです。

日本は鎖国時代に既に独自の科学技術を発展させていましたし、明治以後は、諸外国の技術を導入消化して、日本の国土に合った技術を造り上げて来ましたが、諸外国に知られているのは、その一部にしか過ぎません。先ず、これらを知ってもらうことが重要なことと思いますが、そのためにはエクスクァーシヨンの意義はきわめて大きいと思っています。また、大会には、出来るだけ多くの人が参加し、多くの発表をすることが重要だと思いま

す。大会の骨組みも明らかになって来ましたので、今後のニュースにも目を通しつつ発表の準備をお願い致します。

今回は、とくに、熱帯林業問題や、今まで取り上げられなかった竹の問題などが論議の対象に加えられています。これらの論議や日本の研究の実績などが契機となって、IUFRO の活動内容も大きく発展して行くことが期待されます。ひいては、日本の国際舞台での活躍の方向も明らかになってくると思います。

林業界、木材工業界も只今苦しい時代を歩んでおりますが、森林の価値が見直されているこの時にこそ、同じ苦しみを味わっている世界の林業関係者が一同に会し、世界の今後の森林林業問題を技術的な面から論じ合うことが出来るのは、誠に意義のあることであり、有難いことだと思えます。

これまでのところ組織委員会を中心とした関係者の方々の努力で何とか形が出来つつありますが、いよいよ大会に向けて、皆様の活躍が期待されるところであります。

資金面につきましても、広く各界の御配慮を戴いているところでありますが、いよいよ大つめの時を迎えるにあたり、これまでのご協力に厚く御礼申上げるとともに、益々の御支援を心から御願ひする次第であります。

第17回 IUFRO 世界大会組織委員長
松井光瑠

お知らせ

日本人の招待発表者の論文、およびポスター・セッションの要旨（いずれも原文とコピー）はユフロ組織委員会事務局（林試内）にお送り下さい（締切り3月10日）。原文は印刷のため事務局に保管し、コピーはまとめて3月31日までに届くようにコーディネーターにお送りします。

第17回ユフロ世界大会の概要

—第2回サーキュラーの発行にあたって—

会員の皆様のお手元に、第17回ユフロ世界大会の第2回サーキュラーがとどいたことと思いますが、このサーキュラーは第17回大会の行事内容はもちろん、大会参加のために必要な諸情報や、参加手続き等全てを盛り込んだ案内書(英文)です。以下、本サーキュラーの主な部分を中心に、第17回ユフロ大会の概要を紹介します。

1. 大会日程

大会日程は最終的に、つぎのスケジュール表のとおり決まりました。大会は、エクスカーションを除き、全て京都国際会館で行われます。

2. 開会式

開会式は9月7日(月)、午前10時から12時30分まで1階大講堂で開かれます。開会式の後半にユフロ学術賞の授与が行われます。(日英独仏同時通訳)

3. 特別講演 (Key Addresses)

9月8日(火)から11日(金)までの4日間、毎朝9時から10時まで1階大講堂において特別講演が行われます。講演者およびテーマはつぎのとおりです。(日英独仏同時通訳)

渡辺 武氏 (日米欧委員会日本委員長, 元アジア開発銀行総裁)

“地球の緑を守ろう”

M. Peterson 氏 (アメリカ合衆国山林局長官)

“明日の森林—準備はできているか”

M. Flores Rodas 博士 (FAO 林業局長)

“自立のための林業の研究と開発”

J. Speer 博士 (元 IUFRO 会長, 名誉会員)

“林業研究における国際協力”

4. 部会集会 (Divisional Meeting) および部会合同集会 (Interdivisional Meeting)

各部会は、これまでの部会活動の総括と次期部会活動の計画立案等のため部会集会を開きます。部会集会の日

第17回 ユフロ世界大会スケジュール表

	9月6日 (日)	9月7日 (月)	9月8日 (火)	9月9日 (水)	9月10日 (木)	9月11日 (金)	9月12日 (土)	9月13日 (日) ~17日(木)
9:00			特別講演	特別講演	特別講演	特別講演		
10:00		開 会 式	第2, 第5 部会集会 大会分科会 ポスター・ セッション	第1, 第4 部会集会 大会分科会 ポスター・ セッション	第1, 第2, 第3, 第4 部会合同集会 大会分科会 ポスター・ セッション	第4, 第5 部会集会 大会分科会 ポスター・ セッション	閉 会 式	ニ ク ス カ ー シ ョ ン
12:30							さよなら パーティ	
14:30		第6部会集会 大会分科会 ポスター・ セッション	第3部会集会 大会分科会 ポスター・ セッション	社 交 行 事	第3部会集会 大会分科会 ポスター・ セッション	評 議 員 会	第6部会集会 大会分科会 ポスター・ セッション	
17:00		歓迎レセプション						

程と会場はつぎのとおりです。(英独仏同時通訳)

第1部会：9月9日(水) 10:00～12:30, 1階大講堂

第2部会：9月8日(火) 10:00～12:30, 1階大講堂

第3部会：9月8日(火) 14:30～17:00,

2階A会議室

9月10日(木) 14:30～17:00, 1階大講堂

第4部会：9月9日(水) 10:00～12:30,

2階A会議室

9月11日(金) 10:00～12:30, 1階大講堂

第5部会：9月8日(火) 10:00～12:30,

2階A会議室

9月11日(金) 10:00～12:30,

2階A会議室

第6部会：9月7日(月) 14:30～17:00,

2階A会議室

9月11日(金) 14:30～17:00,

2階A会議室

また、部会合同集会として、第1、第2、第3、第4部会合同の集会在、9月10日(木)、10時から12時30分まで、1階大講堂で、「林業自身に対する林業のインパクト」というテーマの下に開かれます。(英独仏同時通訳)この外、部会間にまたがる合同集会も数多く予定されています。

5. 大会分科会 (Congress Group Meetings)

会期中の最も重要な行事の一つである大会分科会(研究集会)は9月7日(月)の午後2時30分から、11日(金)午後5時まで、会館内の33の会場を使って連日開催されます。各大会分科会は座長の司会で招待論文を中心に進められますが、座長補佐役として日本側から各1名の専門家が選任されます。各分科会のテーマがつぎのとおり決まりました。ただし、調整が未済で暫定的な部分も含まれていますので、ご承知ください。なお大会分科会ごとの時間割りや会場は、7月始め頃配布される大会プログラムに明記されます。

以下、各大会分科会ごとのテーマを列挙しますので、討議論文やポスターを準備する場合の参考にして下さい。

第1部会：森林環境と造林

大会分科会 1.1 森林生態系

〃 1.2 立地

〃 1.3 環境影響

〃 1.4 荒廃溪流、積雪、なだれ

〃 1.5 林分の造成と改良

〃 1.6 熱帯造林

大会分科会 1.7 野生鳥獣管理

〃 1.8 樹木園造成と都市林

第2部会：森林植物と森林保護

大会分科会 2.1 生理

〃 耐寒性、開花生理、根の生理

〃 採種園の将来(2.2と合同)

林冠形成

熱帯の生態生理(1.6と合同)

病虫害抵抗性の生理と生化学(2.3, 2.4と合同)

〃 2.2 産地、育種、遺伝

細胞レベルの育種

採種園の将来(2.1と合同)

造林材料としての五葉松類、アイソザイム、遺伝と育種の統計学

〃 2.3 樹病と大気汚染

マツのさび病

マツのザイセンチュウ(2.4と合同)

外来ニューカリの病虫害(2.4と合同)

熱帯マツ類の病害、大気汚染

〃 2.4 昆虫

個体数変動の数学的モデル

外来ニューカリの病虫害(2.3と合同)

破壊要因の影響と立地要因との関係についての調査方法

マツノザイセンチュウ(2.3と合同)

第3部会 森林作業

部会会議 明日の森林のための森林作業研究

森林作業、林道開設、伐出、材質、造林保育等の相互関係、生態的推移、システム分析手法

大会分科会 3.1 伐木集運材

林道：作設技術と環境に及ぼす影響(山岳林の林道を含む)

長距離運材トラック輸送の地域別報告

伐出、地持作業や伐倒木処理に効果のある伐出方法

〃 3.2 山岳地域の森林作業

(詳細未定)

〃 3.3 造林保育作業法

最大の効果と経済性のための森林造成の機能調整, 山岳地域の造林保育作業

- 大会分科会 3.4 作業計画と管理: 作業研究
 森林作業の計画と管理のためのモデル手法の適用, その経験や問題点, 結果
- // 3.5 人間工学
 森林作業の安全, 手腕振動, 各種人間工学分野の話題
- // 3.6 伐出と木材利用
 木質系エネルギーの集積と変換 (5.3と合同)
- // 3.7 熱帯地方の森林作業
 開発途上国の作業研究の必要性 (3.5と合同)
 技術訓練—ブラジル, ジャリ森林プロジェクト (3.5合同)
 林業における中レベルの技術, インドネシア天然林の集材, 南アフリカ人工林の伐出研究の必要性, 集材用ハンドサルキの使用, 保続収穫を基礎とした天然林, 人工林の伐出作業研究の役割—東部アフリカの状況

第4部会: 計画, 経済, 成長と収穫, 経営および政策
 大会分科会 4.1 森林計測, 成長と収穫

- 成長・収穫の予測モデル, 天然混交林分の成長と収穫の研究, バイオマス
 の研究
 森林モニタリングと収穫予測 (S4.02, S6.02と合同)
 森林計測のための新しい器具
- // 4.2 森林資源調査および木材代替の経済的技術的環境的な側面
 森林動態と林木収穫の予測 a) 人工林, b) 天然林
 温帯および熱帯諸国の資源データ
 リモートセンシングの活用による森林調査 (S6.02, S6.05と合同)
 森林調査の新しい問題とその解決, 連続森林調査法, 電算機によるデータ処理の森林調査への応用
 経営計画のための森林調査 (S4.04と合同)
- // 4.3 国内および国際レベルでの経済学

と森林政策

調査研究の評価, システム・ダイナミックス等による木材の供給モデル, 農山村における林業部門の雇用効果—システム・ダイナミックスによる研究, 林業・林産業での国民所得の推計, 小私有林に対する林業施策の効果, 森林立地と開発政策

- 大会分科会 4.4 森林計画, 経営経済, 間伐材の収穫と経済, ステアリング・システム
 森林経営におけるバイオマスの潜在のおよび実現可能な資源量の記録, 森林経営計画・環境管理および土地利用計画, 森林経営の倫理的義務としての収穫保続, 間伐の技術的/収穫的/生物学的諸側面
- // 4.5 レクリエーション 林業と人間環境の経済学
 レクリエーション林業の経済学に関する文献目録の提示, 森林レクリエーション分野における新しい評価手法の応用と開発, 多目的林業の評価と技術

第5部会: 林産

部会会議 炭材の等級区分および現行の欠点による品等区分法と応力等級区分法における問題点

- 大会分科会 5.1 木材の材質, 熱帯産材の性質と加工利用
 “明日の森林から得られる木材”
 早成樹種に必要な性質, 急速な成長が木材の構造および性質におよぼす影響, 早成樹種の加工的性質と木材構造の関係, 日本における材質研究, 熱帯材の加工利用, 熱帯産造林広葉樹材の特徴
- // 5.2 木材の加工利用
 “明日の森林からの生産物の加工利用”
 日本における積層材の現状, 早成樹丸太の製材, 非石油資源からの接着剤, 木材乾燥, 生産体系
- // 5.3 A 竹および近縁植物の生産と加工利用
 竹の生産, 竹の加工利用
- // 5.3 B エネルギーのための木材

ニエネルギーのための木材の生産、収穫、加工（3.6と合同）

大会分科会 5.4 A 木材の劣化防止

〃 5.4 B 木材化学製品

木材の強度および構造利用グループ（S5.02）は等級区分に関する課題を中心に会合をもつ予定です。

第6部会：一般問題

大会分科会 6.1 森林景観、レクリエーション、観光管理

〃 6.2 統計的手法、数学、コンピュータ、リモートセンシング

〃 6.3 情報システム、用語法

〃 6.4 林業史

〃 6.5 林業研究管理、研究成果の活用

なお、招待論文、討議論文の作成にあたっては、サーキュラーの最終頁に掲載されている執筆要領（Guidelines for IUFRO Papers）を参照してください。

5. ポスターセッション

ポスターセッションはユフロ大会にとって新しい試みであり、分科会形式の会合とは多少異なりますが、研究集会であることには変わりはありません。会期中9月7日（月）の午後から11日（金）の午後まで、会館5階の553～557号室で、部会ごと半日単位で入れ変りながら開催されますが、日程等の詳細は、大会プログラムに掲載されます。参加希望者はサーキュラー折込みの申込用紙（様式A）で関係部会長に申込むか、ユフロJニュースの申込用紙で組織委員会事務局（国立林試内）に申込

み、部会長の承認を得たのち、サーキュラー折込みの要旨用紙（様式B）に所定の事項と要旨を記入の上、本年3月10日までに組織委員会へ提出してください。（ポスターセッションの方法等については、本サーキュラーの関係記事のほか、ユフロJニュース No. 12, No. 13を参照してください。）

6. 閉会式

9月12日（土）午前10時から1階大講堂において閉会式がとり行われます。閉会式に引き続き、12時から会館内で“さよなら”パーティが開催されます。

7. エクスカーション

京都での会議のあと、14コースのエクスカーションが行われます。このうち12コースは専門分野べつコース（4泊5日）、他のコースは一般的なもので、うち1コースは林業一般、他は林産一般コース（共に2泊3日）です。各コースの概要は本誌10号の関係記事を参照して下さい。

なお、各コースの参加費は表のとおりです。また、エクスカーションに参加するための留意事項は次のとおりです。

- (1) 同伴者に対する特別のプログラムは準備していません。
- (2) 各コースの参加費は夕食を含んでいません。また、参加費は今後の事情によっては多少の変更も考えられます。
- (3) 京都を9月13日（日）に出発し、東京到着になり

エクスカーション参加費

コ ー ス		1 室 2 名	1 室 1 名
No. 1	冷温帯天然林	143,000	150,000
No. 2	林地肥培	125,000	138,000
No. 3	治山治水	103,000	117,000
No. 4	巨葉帯林（トドマツ、エゾマツ）	149,000	153,000
No. 5	暖・温帯林	125,000	138,000
No. 6	樹病	100,000	107,000
No. 7	森林害虫と野生鳥獣	100,000	107,000
No. 8	林道網と森林作業の機械化	98,000	106,000
No. 9	林地利用・森林調査・林業経営	81,000	90,000
No. 10	木材工業	92,000	105,000
No. 11	木材建築	110,000	123,000
No. 12	森林レクリエーション	90,000	101,000
No. 13	伝統工芸（一般コース）	65,000	75,000
No. 14	林業経営と自然公園（一般コース）	65,000	75,000

ます。東京着時間は相当おそくなりますので、東京での宿泊希望者はその旨申込書に記入いただくことが必要です。

- (4) 参加者の希望の少ないコースはとりやめることもあります。
- (5) 申込書には第3希望までコース No を記入していただき、第1希望のコースが満員のときは第2、第3希望のコースに変更願うことがあります。もし第1又は第2希望までだけ記入の場合はこれらのコースが満員のときは参加できない場合も生じます。
- (6) 申込みは1981年6月30日締切りとしますが、それ以後でも空席があれば受け付けます。

8. その他

(1) 大会参加申込み

サーキュラーに折込まれた参加申込用紙 (Registration form) に所定の事項を記入し、大会参加費 30,000 円と、同伴者のある場合は1名につき参加費 10,000 円、エクスカーション参加費 65,000~153,000 円 (コースにより異なる)、ホテルを利用する場合あるいは会期中9月9日の懇親会に出席する場合はその経費を添えて、本年5月1日までに大会事務局に申込んでください。この期限より遅れた場合は会費が 35,000 円となります。申込手続完了者には申込受付票 (Pre-registration card) が事務局から送付されます。

(2) 登録

大会第1日目の9月6日(日)、午前10時から午後5時までの間に、会館入口に設けられた受付所で登録受けが行われます。参加者は前項の申込受付票を提示し、時間内に登録を済ませてください。この時点で、関係部会および部会間会議の大会要旨集 (Congress Proceedings) が手渡されます。

(3) 参加取消しと払込金の払戻し

大会参加申込者が都合により大会参加を取消す場合、次の基準により払込金が払戻されます。

① 大会参加費

- (i) 6月30日以前に手続きを取った場合は全額。
- (ii) 8月20日以前に手続きをとった場合は60%。
- (iii) 8月20日を過ぎた場合は、払戻しはありません。

② ホテル予約金

- (i) 予約第1日目より9日前に日本交通公社に連絡した場合は、手数料1,000円を差引いた残額。
- (ii) 2~8日前の場合は、予約金の80%。
- (iii) 1日前以降は払戻しはありません。

③ エクスカーション参加費

- (i) 6月30日以前に手続きを取った場合は、手数料1,000円を差引いた残額。
- (ii) 8月20日までに手続きを取った場合は40%。
- (iii) 8月20日を過ぎた場合は、払戻しはありません。

(4) 社交行事

歓迎レセプションが9月7日(月)夕方、京都国際会館内で開かれます。また、9月9日(水)の午後には、希望者をつのり京都市郊外の山野に出かけ、懇親会が催されます。懇親会の会費は1人3,000円です。9月12日(土)のさよならパーティについては開会式の項で述べたとおりです。

(5) その他

- (i) 会期中、朝夕の交通手段として市内の主なホテルを結んで、無料バスが運転されます。
- (ii) スライド映写機は、ポスターセッションの会場を除き、全ての会場に用意されます。
- (iii) タイプライターは会館内の事務局の部屋と、各部会本部室に用意されます。
- (iv) 会期中、会館内に医務室、郵便局、国際電報電話室、交通公社、日本航空等の窓口が開設されます。
- (v) 参加者のための情報連絡用として、毎日英文の大会日報 (Congress Bulletin) が出されます。
- (vi) 大会終了後、大会報告書 (Congress Report) が編集印刷され、後日、大会出席者全員に送付されます。

リーゼ会長再び来日

松井組織委員長への連絡によると、リーゼ会長がバイン事務局長を伴って3月上旬に再び来日される。滞日は3月2日から6日間の予定で、関係方への表敬訪問や大会についての最終的な打合せが予定されている。

募金状況報告

昭和54年4月7日、第17回ユフロ世界大会組織委員会設立とともに、募金委員会が設置され、募金活動を開始したが、同月23日、ユフロ協会の設立とともに、本格的な募金活動に入ることができるようになった。協力は、日本林業協会会長柴田栄氏を会長に、傘下団体の役員の方々によって組織され、まず、林業関係団体、企業等への募金目標額の設定、協議に入るとともに、一般企業からの寄付募集のため、日本経営者団体連合会に働きかけ、協力を要請した。以来、組織委員会と協力会との緊密な連携のもとに募金業務を進め、林業団体については、中央、地方を通じ、目標どおりの好結果を得た。一方、大学については、募金活動の出遅れがあって、現在7割程度であるが、これも、こんご強力で働きかけ、目標を達成いたすこととしている。

一方、指定寄付の認可をもらうため、当初の予定により、日本学術振興会に対して、募金事務等の依頼を申請していたが、55年11月23日同振興会役員会の承認を得、同会より大蔵大臣あて、指定寄付申請書が提出された。56年1月中には、認可通知がえられる予定である。

また、協力会によって道が開かれた一般団体企業については、経団連の割当表にもとづき主要団体東京銀行協会、日本貿易会、日本鉄鋼連盟、電気事業連合会、日本電機工業会、日本自動車工業会、日本建設団体連合会とその傘下企業に対し、組織委および協力会協同で、募金要請に廻った。現在、各団体とも、56年度予算編成の時期に回答の見込みで、数字の提示はないが、より一層強力な要請活動をしている。なお7団体以外の団体企業についても、ルートを開いて接触の拡大を図りつつある。日本経済の先行き、国家予算の編成内容からみれば、状況は極めて厳しいものがあり、担当者一同、更に奮起して、募金獲得に精を出しているところである。

委員会の動き

★組織・募金・運営3委員会合同会議

昭和55年11月18日(火)午後2時～5時

日本林業技術協会会議室

出席者

(組織委員長) 松井光瑠

(組織委員会常任幹事) 平田種男・佐々木功・樋口隆昌・土井恭次・原田 洸・大矢 寿・神足勝浩・若江則忠・中野秀章・紙野伸二・上飯亥実(代理出席

青島清雄)

(募金委員長) 塩谷 勉

(募金委員) 千葉宗男・片岡 順・木村晴吉(代理出席)・公平秀藏(代理出席)小島俊吉(代理出席)・猪野 曠

(運営委員) 赤井龍男・山田房男・脇元裕嗣・岩下 睦・浅川澄彦

(林野庁) 浅井昭夫・奈須田緑二

(事務局) 野村 勇・森田健次郎・景山哲誠・吉田英夫・斉藤雅昭

以上 30 名

議事次第

松井組織委員長のあいさつに引き続き土井事務局長の進行担当で下記の議題について報告及び審議を行った。

1. セカンド・サーキュラー等総務部会関係事項報告 (中野総務部会長)

(1) セカンド・サーキュラーについて

去る9月モスクワで開催された理事会において

① FAO とのジョイントミーティングは行わない。

② 4人の特別講演者が決定した。

③ 第1～第4部会の合同集会をもつことになった。

以上の決定したのを受けて、セカンドサーキュラーについては現在一部を残して印刷中である。

(2) 本世界大会日程(案)について

(質疑応答)

質問：大会日程(案)のハーフデイツアー(見学及びパンケット)は構想の段階であるので、社交接遇班とさらに煮つけていきたいがどうか。

回答：大会日程は(案)として提案した、具体的なつめについては関係者とさらに協議し決定したい。

2. 研究部会関係事項の報告

(青島研究副部会長)

研究集会・合同集会及びポスター・セッションの両方について説明した。

なお、補足説明として浅川運営委員から研究集会及びポスター・セッションの参加方法について、IUFRO-J ニュース No.10 及び 11 により説明した。

3. EXC 部会関係事項の報告

(紙野 EXC 部会長)

(1) 各コースについては現地踏査の結果具体的日程が決定した。

なお、Exc の現地説明資料の作成準備も進んでおりさらに接遇（レセプション、記念品等）についても各県等と協議しその準備も進めている。

(2) 各コースの料金がほぼ確定している。

(質疑応答)

質問：1 コース 30 人を切ったらどうするか、又 30 人を超えたときその受入れ体制は出来ているか。

回答：1 コース 30 人を切ることはないと思う。また切ったとしても何らかの処置をするので当該コースを中止する考えはない。又、1 コースのバスは 40~45 人程度まで収容できるので、30 人を超えても差しつかえない。

質問：JAL のチャーター便を使うとしているが、アフリカからの参加者をどうするのか。

回答：アフリカの参加者については、ヨーロッパに集合させて、JAL のチャーター便を使う予定である。

意見：外人ツアーはコース外の行動をとることも有り得るので混乱等起らないよう配慮していただきたい。

質問：大会には出席しないが、Exc だけ参加するときは認めるのか。又、JICA の援助で参加する場合、JICA の職員等もつき添うことも考えられるかどうするか。

回答：検討する。

4. 募金関係事項の報告

(土井事務局長)

募金状況について説明

① 林業団体——中央団体・地方団体においては目標額を超えている。出遅れている大学関係については努力中である。

② 一般企業団体——経団連事務局が作成した割当表に基づき主要 7 団体と接触している。

5. その他

(1) 予算についての報告

(中野財務班長)

予算額については、下記の変更があった以外は変更がない。

(変更の分)

収入：万博協会補助金 300万円——600万円

寄付金 9,100万円——9,000万円

支出：外国旅費——特別講演者の旅費の削減による減額

印刷費——ブローシヤディング印刷のための増額

(2) 免税寄付金の指定認可について

免税指定認可手続きが遅れており、指定寄付金の募

金期間は当初より遅れる恐れがある。

(3) 募金活動について

(広谷募金委員長)

免税指定認可の事務手続きが遅れており、一般の募金活動も困難な状況にある。したがって募金活動について各地方の大学の先生からも御援助賜わるよう御配慮願いたい。

また主要 7 団体以外の個別企業についても募金活動を進め、キメの細かい活動を考える必要がある。

(質疑応答)

質問：免税指定認可が遅れることについては募金活動に支障をきたすので、早く認可が出るよう努力していただきたい。

回答：遅くとも 12 月の日本学術振興会理事会に提案審議される見込みであり、日本学術振興会に対しても審議終了後直ちに大蔵省に認可の申請するよう要請し、さらに大蔵省についても認可手続きが促進されるよう要請したい。

(4) 竹の特別シンポジウムについての報告

(樋口 常任幹事)

竹の特別シンポジウムについて、9月7~8日、2セッションを実施する予定で進めるなどのプロジェクトの説明をした。

(5) その他

① Exc 実施についての各県等に対する協力要請については、組織委員長名で協力要請の文書を送付する等レセプション等の協力方依頼している。(Exc. 部会)

② 本世界大会の準備・運営の人員配置等の体制の確立については、案案をつくり、近くその体制の確立を図っていく。(総務部会)

③ 韓国政府の援助で 10 人が IUFRO 世界大会に参加することが決定された旨の情報が得られた。

(総務部会)

④ IUFRO NEWS 第 27 号 (ファースト・サーキュラー) に添付したアンケートについて、11月14日現在における中間集計結果が報告され、予想以上の参加希望のあることが推測される。

なお、ファーストサーキュラーが機関に送付されたが、必ずしも会員まで配布になっていない実態もあるので、セカンド・サーキュラーの送付のときは、必ず会員に配付するようコメントをつけて発送すべきである。

(松井組織委員長)

以上の議題について報告・審議終了後、松井委員長のあいさつがあり閉会した。

★協力会、部会、事務局関係

- 10月28日 エクスカーション・コーディネーター会議
 1. エクスカーション最終コース(案)について
 2. その他
- 11月17日 事務局会議
 1. 今後の運営体制について
 2. 11月18日 IUFRO 合同委員会打合せについて
 3. その他
- 11月27日 事務局会議
 1. 運営体制の整備について
 2. 免税指定寄付金の大蔵省認可の見直しについて
 3. その他
- 12月1日 エクスカーション部会打合せ
 1. エクスカーションについての打合せ
- 12月5日 事務局会議
 1. 運営体制の検討
 2. その他
- 12月8日 エクスカーションコーディネーター会議
 1. 現地討議資料・パンフレットの作成方法
 2. その他
- 12月11日 研究部会打合せ会議(於・東大)
 1. 研究部会運営体制の整備について
 2. その他
- 12月12日 事務局会議
 1. 運営体制の検討
 2. その他

第5部会: 5.4 B "Wood Chemicals"

大会分科会設立のお知らせ

このたび第5部会に "Wood Chemicals" 大会分科会が新しく設立する運びとなり、部会長 (Divisional Coordinator) である Dr. W.E. Hillis (Australia) より香山邇北海道大学教授に座長として、その大会分科会のプログラムを作製するよう要請がありました。

招待講演は次のようになっております。

ウッドケミカルの現状および将来

中野準三 (東京大学)

リグニンの水素化分解

榎原 彰 (北海道大学)

化学修飾木材の可塑性

白石信夫・横田徳郎 (京都大学)

海外の研究者にも招待講演を依頼しております

(詳細未定)

ポスターセッションや分科会での討議への皆様の御参加によって、この分科会を意義あるものにさせていただきたく、御協力をお願いいたします。

ニール・コーディネーター

(須藤彰司 林業試験場)

アンケート回収状況のその後

1月19日現在におけるアンケートの回収状況をとりました。回答者は前号でお知らせしたものよりさらに110名ふえ、確実に参加する人は292名となりました。1月19日に第2回サーキュラーの発送を完了しましたので、いよいよ本式なフォームによる登録がはじまります。かきねて皆様のご協力をお願いします。

1. 地域別・国別

国名	A	B	C	不明	計
<アジアおよび中近東>					
中国	2	4			6
インド	3	3			6
インドネシア	1	2	1		4
韓国	7	4			11
日本	39	18	7		64
フィリピン	2	1			3
スリランカ		1			1
タイ	2				2
マレーシア		2			2
イラン	1			1	2
パキスタン	1	1			2
トルコ	1	2	2		5
イスラエル	3				3
小計	62	38	10	1	111
<ヨーロッパ>					
オーストリア	5	6			11
ベルギー	1				1
ブルガリア				1	1
チェコスロバキア	1	7	1	1	10
デンマーク	7	3			10
西ドイツ	18	11		1	30
フィンランド	6	8	1		15
フランス	5	5			10
アイルランド	2	1			3
ハンガリー		2	1		3
ルクセンブルク	1				1
イタリア	1	6	3	2	12
オランダ	5	7			12

国名	A	B	C	不明	計
ノルウェー	10	10	2		22
ポーランド	3	3	2		8
ポルトガル	1	1		4	6
スベイン	1	3			4
スウェーデン	10	14			24
スイス	4	5			9
英国	11	6			17
ソ連		5		5	10
ギリシャ		2			2
ユーゴスラビア	17	5			22
ルーマニア		1			1
小計	109	111	10	14	244
<アフリカ>					
ザンビア		1			1
ニジブト	1				1
ガボン	1				1
ナイジェリア	6	6		1	13
南アフリカ	7	1			8
スーダン	2				2
タンザニア	1				1
ウガンダ	1	1			2
ザイール		1			1
小計	20	10		1	31
<北米>					
カナダ	25	18	1	1	45
米国	55	43	4	5	107
小計	80	61	5	6	152
<中南米>					
アルゼンチン	1	1			2
ブラジル	3	6			9
チリ	1	1	1		3
メキシコ	1	1			2
トリニダードトバゴ		1			1
ウルガイ		1			1
ベネズエラ	1	1			2
小計	7	12	1		20
<大洋州>					
バブアニューギニア		1			1
オーストラリア	10	13		1	24
ニュージーランド	4	2			6
小計	14	16		1	31
合計	292	248	26	23	589

2. ニクスカーション・コース別

コース	A	B	C	不明	計
1	20	20	2	0	42
2	16	11	2	1	30
3	16	9	0	3	28
4	19	15	2	1	37
5	15	17	2	0	34
6	17	13	0	4	34
7	8	9	1	0	18
8	12	13	2	0	27
9	22	18	3	1	44
10	17	10	1	1	29
11	9	5	0	0	14
12	13	9	0	0	22
13	10	5	0	1	16
14	15	16	0	0	31
小計	209	170	15	12	406
不明	66	69	11	11	157
不参加	17	9	0	0	26
計	292	248	26	23	589

3. 部会別

部会	A	B	C	不明	計
1	68	53	6	6	133
2	56	67	5	9	137
3	28	21	4	1	54
4	40	26	5	2	73
5	43	36	2	1	82
6	31	20	1	1	53
不明	26	25	3	3	57
計	292	248	26	23	589

(注) 参加の可能性の表示

- A: ほぼ確実に参加する
 B: 参加したいが、不確か
 C: 参加できそうにない

IUFRO-J NEWS No. 14

昭和56年1月20日

編集: 国際林業研究機関連合-日本委員会事務局
 発行: 農林水産省林業試験場